

IT革命を推進する為の電気通信事業における競争政策のあり方、担当係

現在、携帯電話(以後ケータイに記す)を、主人も私も持っています。主人は野球部の部員と
なり、例えば、当日の試合直前の連絡方法、として、ケータイを持つようになりました。その頃、私は電磁波
についての情報聴取や講演会に出席していました。そんなことから、主人に、できるだけズボンのポケットや
ベルトに吊るすように、言葉がけをしていました。そして、その頃、子犬の通っている保育所^{幼稚園}の庭から、60~70mの所に
ツーカーセラーが鉄塔を建てる、と近所の人から聞きました。この時、不思議に思ったことは、1. その近くの人達
への説明や、お話がなかったこと、2. その土地を売った人は、おばあさんの一人暮らしで、近所の
人への説明もよくわからなかったこと、の2つでした。国や企業と私達が上手く進んでいくには、正確な
情報と温かい人のつながりが必要だと思ひます。企業優先の情報を流すばかりでなく、人として大切な
温かいつながりも忘れはばらばらと思ひます。結局、陳情書=を、鉄塔は、建ちませんでした。すぐ近くに
中学校や公民館もあり、当然の結果だと思ひます。私がケータイを持つようになったのは、主人の父親
が、脳梗塞で、倒れるようになったからです。バッグの中へしのばせていますが、殆ど、使用しません。緊急用
と、決めています。常に、メモカードは、持っています。私の中では、鉄塔は、共同開発にして欲しいのだ
けど、それは無理なのかな。機械に操縦されるのではなく、人が機械を動かすこと、を、忘れたく
ないです。基本は、人なのだから。

大里郡寄居町折原829 黒瀬恵子